

「AI 時代に欠かせない能力」を考える

—①「読み解力」、②「問い合わせを立てる力(設問能力)」、③「AI を含むデジタル関係費用を準備する能力」—

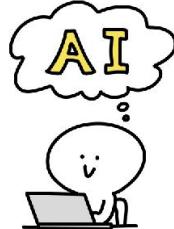
開倫塾

塾長 林明夫

Q 1 : 「AI 時代に欠かせない能力」は何ですか。

A : 3つあります。

(1) 第一は「読み解力」です。AI、チャット GPT などで示された内容を、「正確的、分析的・論理的に読み解く能力」つまり、「読み解力」です。せっかく AI を活用するのに、AI の説明内容が「読み解けない」「示された内容が理解できない」のでは、AI が役に立たないからです。



(2) 第二は、「AI と対話する力」具体的には、「問い合わせを立てる力」つまり、「設問能力」です。AI を活用するには、必要な「問い合わせ」を立て続け、AI との対話、議論を深めることが求められるからです。「設問能力」なくして「AI との対話なし」と考えます。

(3) 第三は、「AI を含むデジタル関係費用を準備する能力」です。AI やチャット GPT を用いるのには、様々な費用・料金が発生するからです。Wi-Fi の整備、月々の契約料金、新規機種への買い替え費用など、AI を活用するには「費用」が掛かります。AI 関係費用をどのように準備するかも大切な課題です。

Q 2 : では、どのようにAI時代に欠かせない「読み解力」「設問能力」を身に着けたらよいのでしょうか。

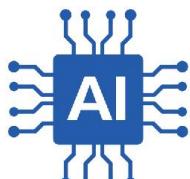
A : (1) ①普段から、「辞書」「新聞」「読み解き」「図書館」に慣れ親しむことが、AI 時代の「読み解力」を身に着けるのに役立ちます。

②「身に着けていることばの数」つまり、「語彙数」が少ないと、AI を使いこなすことが難しい、AI・チャット GPT で示されたことを正確に読み解き、理解することが難しいのです。

(2) ① AI 時代にこそ「新聞」を毎日読み、「自分で考える力」「批判的思考能力」は欠かせません。

②また、AI 時代にこそ「本格的な読み解き」で「思慮深さ」や「自分を振り返る力(省察力)(自省心)」を身に着けることは、欠かせません。

③ゆっくりと、腰を落ち着けた「読み解き」を行うときの、「著者との時空を超えた対話」は、「問い合わせを立てる力」「設問能力」を身に着けるのに役立ちます。



(3) ① AI 時代にこそ、基礎学力(全教科の基礎知識)を身に着けておくことが求められます。

②各学年で学ぶすべての教科の内容を、ていねいに学び、理解を深め、自分のことばでいえる(表現・説明できる)ことは、AI を使いこなす前提となる基礎学力となります。

「全教科、全分野の基礎学力なくして、AI 活用なし」です。

③ AI で調べたこと(調べた語句とその回答内容)は、きちんとノートに「メモ」し、よく「理解」、読む練習や暗唱、書き取り練習をし、自分のことばでいえる(表現・説明できる)ようにしましょう。

Q 3 : どのように「AI を含むデジタル関係費用」を準備したらよいのでしょうか。

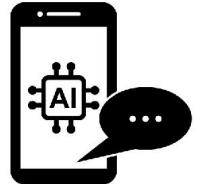
A : (1) AI 時代に欠かせないのはお金、AI 関係費用の準備です。

(2) ① AI の使用を必要最小限度にすること。

② 不要な支出を削減して、AI 関係費用を準備する以外ありません。

③ スマホに触れる時間を大幅に削減することも欠かせません。

○ どうしたらよいか、うまくお考えください。



Q 4 : 学習塾、予備校、私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A : (1) ① 「エンゲル係数」ということばがあります。

② 家計に占める食費の割合はどのくらいかは、家計を考える場合にとても大事です。



③ エンゲル係数が高くなればなるほど、生活は苦しくなります。

(2) 現在、多くの人々の生活が苦しいのは、日本のエネルギー自給率・食料自給率が低いために、エネルギーや食料を輸入に頼らざるを得ず、「円安」で物価が上がっているためと思われます。

(3) これに、コロナの前と比べ、大幅に膨れ上がった「AI を含むデジタル関係費用」が上乗せされますので、多くの人々の生活が苦しくなっていると思われます。「AI 関係費用の家計を占める割合」は生活に大きく影響しています。

(4) では、どうしたらよいか。塾生・生徒の皆様といっしょに、一度、議論なさることをおすすめします。素晴らしい勉強になると確信します。

Q 5 : 最後に一言どうぞ。

A : 本年も、先生方がお読みになれば参考になると思われる本を、何冊か御紹介させて頂きます。

(1) 一冊目は、東大 EMP 横山禎徳編「東大エグゼクティブ・マネジメント—課題設定の思考力」東京大学出版会 2012 年 5 月 25 日刊です。東大小宮山総長の目玉プログラムの最大の成果物(アウトプット)の一つです。世界に先駆けて、新たな課題の設定に向けた、マッキンゼー元社長の横山氏の渾身の作品です。

(2) 二冊目は、一冊目にも登場した中国哲学者中島隆博著「中国哲学史—諸子百家から朱子学、現代の新儒家まで」中公新書、中央公論新社 2022 年 2 月 21 日刊です。孔子から老子、莊子、現代哲学まで、世界史の視座から読み解く 3000 年の叡智。同著「莊子：鶴となって時を告げよ」(書物誕生—あたらしい古典入門)岩波書店 2009 年 6 月 19 日刊とともに、じっくりお読みください。

(3) 三冊目は、齋藤ジン著「世界秩序が変わるとき—新自由主義からのゲームチェンジ」文春新書、文藝春秋 2024 年 12 月 20 日刊です。ワシントン在住の今、最も注目される各国政府の経

済政策分析専門のコンサルタント。なぜトランプ大統領が本気になって「アメリカファースト」を叫び続けるのかよくわかります。強い日本の復活に向けた、本格的な提言は超注目です。

(4)四冊目は、桜田美津夫著「物語 オランダの歴史一大航海時代から『寛容』国家の現代まで」中公新書、中央公論新社 2017年5月25日刊です。フリードリッヒ・シラー著「オランダ独立史(上)(下)」岩波文庫、岩波書店 1949年8月15日刊やジョン・ロック著「寛容についての手紙」岩波文庫、岩波書店 2018年6月18日刊と併せてお読みください。17世紀の世界を席巻したオランダの歴史と思想がよくわかります。なぜ江戸幕府がオランダを選んだのか、当時、蘭学は世界最先端であったことも少しずつわかつてきます。

○これから日本の日本を考えるのに参考になるのは、先月紹介した「カナダ」と「オランダ」かもしません。

(5)五冊目は、関根康人著「生命の起源を問う—地球生命の始まり」ブルーバックス、講談社 2025年7月20日刊です。

○講談社の「ブルーバックスシリーズ」は、高校生・大学生・社会人はもちろん、理科の大好きな小学生高学年、中学生でも十分に理解できます。毎月一冊ずつ「ブルーバックスシリーズ」をお読みになることを塾生・生徒の皆様、更には先生方におすすめください。

○月刊「子供の科学」、「読売 KODOMO 新聞」も超おすすめです。

○先生方の予習用、普段の勉強用にも「ブルーバックス」「子供の科学」「読売 KODOMO 新聞」はお役に立ちます。

(6)六冊目は、3年前に御逝去された、弁護士高井伸先生夫著「高井伸夫の社長フォーラム 100 講座記念～1講1話・語録100選」中央会・経営教育センター 2004年2月19日刊です。高井先生が、生前、御茶ノ水の「山の上ホテル」で毎月開催された「社長フォーラム」100回分をコンパクトにまとめた講演速記録です。真に迫る素晴らしい内容です。毎回、最前列でお聴きして、とても参考になりました。

○長年にわたり親しく御指導頂いたためか、何冊か高井・岡芹法律事務所からお預かりしていますので、御希望の先生は、開倫塾、林までお電話ください。(0284-72-5945)

(7)七冊目は、辻邦生著「春の戴冠(上)(下)」新潮社 1977年刊です。高校の現代国語の教科書を予習するのと同じ気持ちで、意味調べなどをしながら、ていねいにノートを取りながら読むと、内容がどんどん頭に入ります。名作「廻廊にて」「嵯峨野明月記」も素晴らしい内容です。同著「海辺の墓地から」など四冊のエッセー集(新潮社刊)は、フランスの哲学者「森有正エッセー集成(全5巻)」(ちくま学芸文庫)と重ね合わせると、ヨーロッパ文明が浮かび上がってきます。是非、御一読ください。

今年もよろしくお願ひいたします。